

学会 彙 報

(昭和五十七年六月)

(昭和五十七年十月)

◇佛教学会研究発表例会並総会

六月二十九日(水)午後四時十分

於 視聴覚教室

研究発表

カシュミール所伝の梵文阿含断簡に

ついて 博士課程三回 大窪 祐宣

中国における法華經の受容について

教 授 三桐 慈海

出席 板東学会長はじめ四十名。

◇学術懇談会

——横超慧日先生を囲んで——

七月二十九日(木)午後五時半より

於 キヤピタル東洋亭二階

出席 板東学会長はじめ十八名。

◇昭和五十六年度

修士論文・卒業論文題目

昭和五十六年度に提出された佛教学関

係の修士論文・卒業論文のうち、左記の

論文が審査を通過した。

▽大学院修士論文

佛教学専攻

▽文学部佛教学科卒業論文

佛教学

※リボジトリ非公開

※リポジトリ非公開

編集後記

*新装なった博綜館に第一研究室の名のもと、従来の真宗学・佛教学研究室が一つの場で新たに開設された。それにしたいがい編集室も、南に古都を一望する格好の場に構えられることとなった。

街並を眺望しつつふと思う。われわれの展望は久しくすでに成っている。ただ近代佛教学が切り開いていかねばならない課題の重さははかり知れない、と。

*ここに若き研究者の論文三編を載せた。初期中国華嚴思想における智嚴独自の地歩を、その「阿梨耶識観」を通して明らかにしようとする織田論文。また諸学派の「心(citta)」の語義解釈を網羅し、世親による解釈の特徴を検索し、彼の思想変遷の足跡を見ようとする兵藤論文。更に三つ目の松田論文は、全く新しい文献を発掘し世に問うたものといっても過言ではない。『分別縁起初勝法門経』なる經典が、世親所屬の經量部の典拠する經であるとして、新たな光をあてた。これらもつ意義の大きさは今後論議を呼ぶこと必定である。これら三編いづれもわれわれの将来を占うに足るものと自負したい。

*平川先生には、貴重な時間をさいっていただき、『戒律思想の研究』の書評をいただいた。厚く御礼申し上げます。

*七月末、会員諸氏が横超先生を招き会食した。そのとき先生が御自分の研究生活を送りかえり語って下さったものをここにいただくことにした。後半は次号に載せる予定である。(輝)